

中学校 2 年学級活動

1 山口県独自の体験学習法「AFPY (Adventure Friendship Program in Yamaguchi)」を用いた「豊かな人間関係づくり」から

(1) 実施について

- ① 対象学年…中学 2 年生
- ② 日時…平成 21 年 6 月 18 日 (6 校時)

(2) 題材名 課題解決学習「可能性は広げることができる」

(3) 目標

- (感情) 仲間を頼ることで可能性が広がる、その感覚を楽しむことができる。
- (行動) クラスの一員として、楽しく意欲的に活動に参加することができる。
- (認知) 意識のベクトルを変えることで、できないと思っていたことができるようになる瞬間に気づくことができる。

(4) 本時案

- ① ねらい 仲間を頼る心地よさと安心感を体験することで、これからのすごしかたを考えるきっかけとすることができる。
- ② 準備物 人数分のフェルトボール (毛糸のボールなど)、筆記用具 (生徒)
- ③ 学習の展開

活動の内容	AFPY の視点
<p>1 意識のウォームアップをする。 「フィンガークロス」 「フィンガーソーセージ」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>小さなAHA体験で意識を活性化させる。</p> </div> <p>「反射神経を測ろう」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>2人組み (3人組) を作り、片方が相手の手の少し上からボールペンを落とす。落とされたボールペンをつかむことができるかどうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲーム的要素の強い活動を行うことで子どもたちの意識を活動に集中させる。 ・ 反射神経を試す活動で、次の活動への意識付けを図る。 ・ このグループが活動後のふりかえりの際の小グループとなる。 ・ 挑戦は1人から始めるが、数人に増えても (たとえ野球部でも) 全てのボールを取ることはできない。
<p>2 本時の課題解決学習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラス全員で1つの円 (輪) になる。 <p>「オールキャッチ」</p>	

<p>全員が1つずつボールを手にする。1人が中央に立ち、一斉に投げ上げられたボールを申告した数だけ取るチャレンジをする。人数を3人まで増やし、最高何個とれるか挑戦する。</p> <p>何度か挑戦者を代え、全てのボールがとれるまで挑戦を続ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が取るのだという意識から、取りやすい所へ投げてもらおうという外に向けた意識になったとき、可能性は広がる。 ・ さらに、体で作ったボックスに投げ入れてもらおうといった、「相手に頼る」意識になったとき、「オールキャッチ」は成功する。 ・ 少人数にすることで、全員がふりかえりを言語化することができる。 ・ 発表を強制しないふりかえりにしたいが、発表が活性化しないときは数人を指名して発表してもらうことも必要。 ・ ふりかえりシートは担任が目を通し、必ず肯定的な所見を書き加えて生徒に返す。
<p>3 小グループでふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何が成功のきっかけになったのか。 ・ この活動で自分は何を感じたのか。 <p>4 ふりかえりを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんなことが話題になりましたか。 <p>5 個人のふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふりかえりシートに気づきや感想を書き込む。 	

2 備考

AFPYの活動は、冒険（アドベンチャー）がベースの体験学習である。安全な冒険のためには、それを行う準備が必要で、グループのメンバー全員が同じ目的を持って進み始めることと、全員で作成し全員が納得した約束が不可欠である。

今回の活動は、ゲーム的要素の強い活動を通じて、楽しい雰囲気の中で協力という意味について考えることができるようになってきている。クラスの目標や約束を確認して（作って）活動を始めるといことが難しいため、ふりかえりが一般的になってしまうことも危惧されるが、SST（ソーシャルスキルトレーニング）の色の強い活動でもあるため、グループがグループとして成立するための具体的な意識や行動の指針となると考えることもできる。

AFPYは、クラスの間人間関係をより豊かにしていくために大変有効な教育活動であり、それにより個々が安心して学習に取り組める雰囲気をクラスに醸成することができる。

AFPYはその教育理念から、教科を越えた活動を展開することが可能であり、1年を通じて無理なく学級づくりに取り入れていくことができる。AFPYは多くある教育手法の一つであるため、これを実践しなくてはいけないというわけではなく、AFPYを知らずとも、子どもをその気にさせ、結果を出し、意識と行動を次につなげていく温かい教育を展開されている先生方も少なくない。